



魂魄之塔一帯は沖縄戦激戦地。沖縄で最初に建てられた慰霊碑。3万5千柱の戦没者の遺骨が納められている。

写真提供：山田圭吾さん（那覇教区）

# 土が、石が、叫んでいます

沖縄慰霊の日 6月23日

社会福音化部、正義と平和協議会担当の松浦謙神父は『『沖縄戦戦没者の遺骨』の尊厳を守るように訴えましょう～宗教者共同声明』を受け、1月20日付で教区の皆様に文書を送りました。戦争犠牲者の遺骨が混じった土砂を基地建設に使うことに対し、政府に抗議、共同声明を発表し、この計画の即時撤回を求めるものです。

前田万葉枢機卿も「遺骨は死者の尊厳そのもの。遺骨を蔑ろにすれば、死者の尊厳を踏みにじることになる。戦争で命を奪われた方々の遺骨を軍事基地建設に利用することは、命を尊ぶ宗教者として、これを許すことはできない」とのメッセージを寄せました。

また4月、日本カトリック正義と平和協議会の勝谷太治司教（札幌教区）とウエイン・バーント司教（那覇教区）は、内閣総理大臣、防衛大臣、沖縄県知事、カトリック信徒に宛て、次のような声明を出しました。

## イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、その悩みを少しでも分かち合うことのできる教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」増補新版より

日本カトリック正義と平和協議会会長、担当両司教声明文

「辺野古新基地建設に、沖縄戦犠牲者の遺骨が収集されないまま眠る沖縄本島の土を使わないでください」

アジア・太平洋戦争末期、沖縄は「本土の捨て石」となり、激しい地上戦が行われ、20万人以上の方々が亡くなりました。沖縄にはその時の犠牲者の遺骨が2822柱、今も収集されないまま、土中に眠っています（県営平和祈念公園 戦没者遺骨収集情報センター調べ 2021年3月26日現在）。いうまでもなくそこには、日本軍兵士のみならず、米軍兵士、朝鮮人日本軍兵士、子どもを含む大勢の民間人の遺骨も含まれています。特に激戦地となった沖縄本島南部地域から数多くの遺骨が集中して発見されています。

ウエイン・バーント司教は、次のように訴えます。

沖縄では戦争犠牲者の遺骨を拾い集めて丁寧に遺族に返す「沖縄戦遺骨収集ボランティア『ガマフヤー』」活動が行われています。信条の違いを超えて、多くの皆さんが協力しています。こうした活動は、人としての尊厳をどうとぶ人類共通の心情を表現すると同時に、（カトリックの）「肉体の聖性」の教えにも通じる大切な行いです。ところが最近、まだ多くの戦争犠牲者の遺骨が眠る場所から土砂を獲って、新しい基地をつくるための埋め立てに使おうとする計画が持ち上がっています。これは、戦争による犠牲者をさらに犠牲にして戦争に備える行為であり、遺骨にも及ぶ人間の尊厳と聖性に対するひどいさげすみです。それはまた、そのご遺族にとっても、これは耐え難いほど辛いことです。霊性ふかい沖縄の皆さんはこのような行為を決して許すことができません。

地上戦で多くの犠牲者を出し、今もなお日米の安全保障政策のために圧倒的な犠牲を強いられ続けている沖縄において、戦争犠牲者の遺骨が基地建設のために土砂の一部として利用されるような、甚だしく非人道的な所業がさらになされることは、決してあってはなりません。日本カトリック正義と平和協議会は、日本政府と沖縄県玉城デニー知事にこのことを強く求めます。またカトリック信徒の皆様にも、この問題に強く関心を持ち、動向を注視していただきたく、ご理解とご協力をお願いいたします。



（那覇教区『南の光明』749号2021年4月1日より）

2021年4月20日  
日本カトリック正義と平和協議会  
会長 勝谷太治司教  
担当司教 ウエイン・バーント司教

沖縄出身で長年この大阪でわたしたちカトリック教会の活動にもご理解と協力くださり、活動してこられた日本基督教団の上地武牧師（今年に入って大阪から沖縄に転任）、また、宗教者共同声明に賛同した林和則神父からメッセージをいただきましたので紹介します。

## 「遺骨の混じった土砂」

日本基督教団首里教会 牧師 上地 武

私は、沖縄戦で激戦地となった摩文仁の丘に立つと、足が震えます。それは、私が踏んでいるこの土地は、沖縄戦で犠牲となった数えきれないほどの人々の血がしみ込み、収集されていない遺骨が眠っているからです。沖縄島の南部一帯は、そのような場所です。あろうことか、その土砂を掘り起こし、名護市辺野古の米軍新基地建設への埋め立てに使用することです。採掘業者や国は、「遺骨は取り除いて行う、供養は済んだ。」と言い訳をしています。戦争犠牲者は死んでもなお基地の土台として犠牲にされるのです。沖縄では、国に対して「南部土砂使用」を断念するよう訴えています。全国の皆さんにも呼びかけています。今年もまた6月23日がやってきます。土が、石が叫んでいます。

## 「沖縄慰霊の日に思う」

神戸西ブロック 林 和則

辺野古の埋め立て土砂の採取地に沖縄本島南部の土地を追加することは、今月23日の沖縄慰霊の日の精神に反する冒涇的な行為です。いまだに遺骨が残っているという具体的事実もありますが、その地が沖縄戦の軍民を交えた最終的な激戦の地であったからです。それはもはや「戦闘」ではなく本土のための「防波堤」として沖縄の人びとを「人間の盾」としたような掃討戦でした。その地の上に平和を維持しつづけることこそが「慰霊」でしょう。それを基地の土とするのは冒涇であると思います。

オンライン（ハイブリッド型）開催！

大会まであと6か月

多岐にわたる  
申し込みあり！

◆分科会主催 2次募集

締め切り：6月19日（土）まで

◆大会ボランティア募集

要約筆記、IT・オンラインサポート etc  
説明会、研修あり（初心者歓迎）

申込など詳しくは

JP 大阪大会事務局ページをご覧ください。

[http://www.osaka.catholic.jp/no\\_side/jptaikai2021.html](http://www.osaka.catholic.jp/no_side/jptaikai2021.html) ☎ 06-6942-1784

